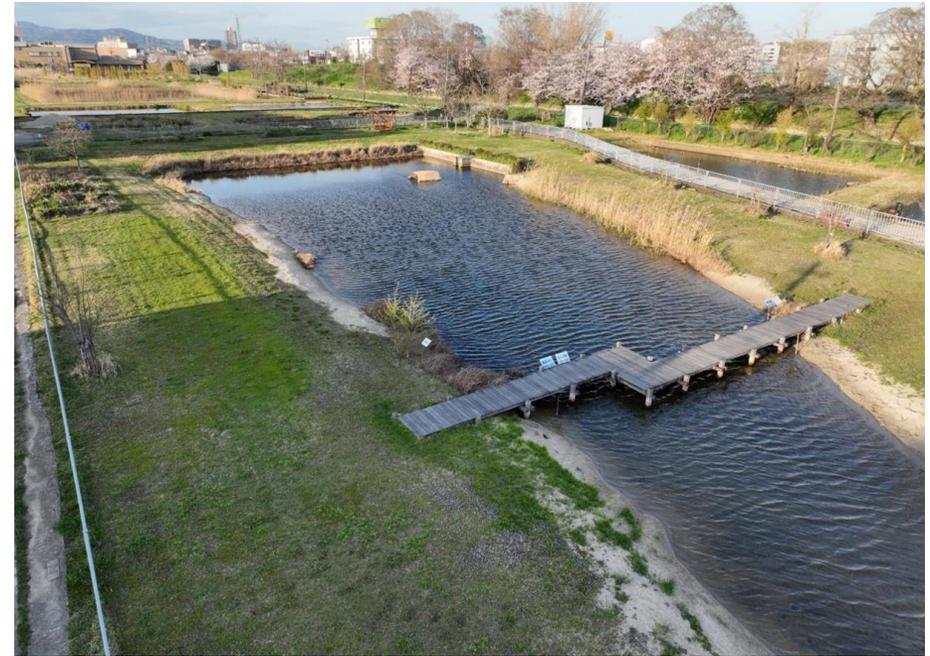


場所 大阪府寝屋川市

面積 1.8ha



活動目的 公開エリアは地域住民をはじめとする一般の方の憩いの場や、生物多様性に関する研修のフィールドとして活用できるよう、生物多様性に寄与する管理を行う。非公開エリアは主に試験や希少種の生息域外保全等の調査研究に寄与する管理を行う。

サイト概要 大阪府寝屋川市に位置し、淀川左岸に隣接する。サイト内には淀川の氾濫原を模したビオトープ池があり、天然記念物のイタセンパラの生息域外保全を行っている。また、里山林・水田など二次的自然を再現した環境がある。サイトに隣接する、生物多様性センター敷地内の本館では、大阪府内で見られる動植物、淀川で見られる淡水魚などが展示されている。

土地利用の 変遷

自然に形成された池を利用して、1955年に「大阪府水産試験場寝屋川養魚場」が設置され、その後、大阪府淡水魚試験場、水生生物センターとして、内水面増養殖や水辺環境保全に関する試験研究を行ってきた。2006年に水辺環境に関する実験や環境学習等への利用を目的として、コンクリート池であった場所に土砂を搬入し試験池やビオトープ池を整備。2018年に生物多様性センターと改称し、水辺のみならず森林や哺乳類、昆虫など幅広い自然環境を対象とした試験研究に取り組む。2020年には北側に里山林を模した植栽を行った。

サイト周辺の 環境

西側は淀川に隣接しており、淀川堤内には広大な草地のほか、樹林地やワンドが点在する。東側は水路敷に面し、その先は道路や農地、住宅地となっている。

アピール ポイント

公開エリアは、地元の学校の生徒やNPOなどを含む年間3000人程度が見学に来ており、環境学習等の場となっている。非公開エリアについても、行政やボランティアの方を対象とした講習会を定期的を開催しており、樹木調査等のフィールドとして活用している。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

サイト内には淀川の氾濫原を模したビオトープ池があり、天然記念物のイタセンパラの生息域外保全を行っている。また、里山林・水田などを再現した環境がある。サイト全体が二次的自然となっている。

【主な植生】

非公開エリアは、植栽由来のアベマキ、アラカシ、ウバメガシ、カシワ、クヌギ、コナラといったブナ科樹木で構成されている。

【確認された主な動植物など】

サイト内では植物81種、哺乳類10種、爬虫類9種、両生類4種、鳥類56種、昆虫類等147種が確認されている。

植物：チガヤ (*Imperata cylindrica* var. *koenigii*)、ヨシ (*Phragmites australis*)

哺乳類：キツネ (*Vulpes vulpes*)、タヌキ (*Nyctereutes procyonoides*)

爬虫類：アオダイショウ (*Elaphe climacophora*)、ヒバカリ (*Hebius vibakari vibakari*)

両生類：シュレーゲルアオガエル (*Zhangixalus schlegelii*、成体)、トノサマガエル (*Pelophylax nigromaculatus*、幼生・成体)

鳥類：モズ (*Lanius bucephalus*)、ツグミ (*Turdus naumanni*)

昆虫類ほか：アキアカネ (*Sympetrum frequens*、幼虫・成虫)、コシマゲンゴロウ (*Hydaticus grammicus*、成虫)



写真の説明：トノサマガエル



写真の説明：水田

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

淀川の氾濫原を模したビオトープ池があり、天然記念物のイタセンパラの生息域外保全を行っている。また、里山林・水田などの二次的自然を再現した環境がある。公開エリアは地域住民の憩いの場や生物多様性に関する各種イベント、研修フィールドとして利用している。

【主な植生】

公開エリアは、センダンや植栽由来のケヤキ、エノキ、ハンノキ、ヤマハンノキ、サワグルミ、イロハモミジ、エゴノキ、ハナイカダといった樹木で構成される。

【確認された主な動植物など】

2020年に一般市民を対象として開催した水田調査講習会では、チビゲンゴロウ (*Hydroglyphus japonicus*) などの水生昆虫が確認された。
2023年10月に子どもを対象として開催した「生きものふれあいイベント」では、陸生のコバネイナゴ (*Oxya yezoensis*)、ツマグロヒョウモン (*Argyreus hyperbius hyperbius*) や水生のタイワンウチワヤンマ (*Ictinogomphus pertinax*) のヤゴなど、第1部・第2部でそれぞれ33種、37種が確認された。



写真の説明：水田調査講習会



写真の説明：生きものふれあいイベント

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

サイト内には淀川の氾濫原を模したビオトープ池があり、天然記念物のイタセンパラの生息域外保全を行っている。また、里山林・水田など二次的自然を再現した環境があり、希少な動物の生息場となっている。

【確認された希少種】

サイト内では、環境省RLもしくは大阪府RLに掲載されている希少種の代表として、哺乳類1種、爬虫類1種、昆虫類3種が確認されている。

キツネ (*Vulpes vulpes*、大阪府RL CR+EN)

経年的に確認されている。これまでに採餌中の様子も撮影されていることから、サイト内を採餌場所として利用していると考えられる。

ヒバカリ (*Amphiesma vibakari*、大阪府RL : VU)

経年的に確認されている。サイト内には本種が餌とするカエル類の幼生や小型魚類が多く、生息場所もしくは採餌場所として利用していると考えられる。

マイコアカネ (*Sympetrum kunckeli*、大阪府RL : NT)、アキアカネ (*Sympetrum frequens*、大阪府RL : NT)、ナツアカネ (*Sympetrum darwinianum*、大阪府RL : NT) 等のアカネ属

羽化期および繁殖期に成虫が確認され、幼虫も確認されることから、繁殖場所および生息場所として利用されていると考えられる。



写真の説明：ヒバカリ

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p><活動目的> 公開エリアは地域住民をはじめとする一般の方の憩いの場や、生物多様性に関する研修のフィールドとして活用できるよう、生物多様性に寄与する管理を行う。 非公開エリアは主に試験や希少種の生息域外保全等の調査研究に寄与する管理を行う。</p> <p><管理方法> ・公開エリア 開場時間内であれば一般市民が自由出入りできるエリアとなっている。立ち入りがしやすいよう、適宜草刈りや樹木の剪定等を行う。また、冬季には池干しを行う。 ・非公開エリア 当センターが実施する試験研究や希少種の生息域外保全に使用されるエリアとなっている。また里山環境を模した植栽や水稻栽培を行っている。 適宜草刈りや樹木の剪定等を行う。また、冬季には池干しを行う。</p>	<p>【モニタリング対象】 植物、哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類等を対象とする。</p> <p>【モニタリング場所】 サイト全域</p> <p>【モニタリング手法】 哺乳類はセンサーカメラ調査を行う。 その他の分類群や採集や目撃等による調査を行う。</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 哺乳類はセンサーカメラを通年設置する。 その他の分類群は年2～3回程度の一斉調査を行うほか、イベントにおいて確認された生物も記録する。</p> <p>【モニタリング実施体制】 上記の実施時期のほか、日々の業務中に確認された生物は都度、種類および確認日時を記録する。 最終的な種の同定や調査結果のまとめは、当研究所における各分類群専門の職員が行う。</p>